HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	直系家族の周期的発展の理解と今日の周期研究への期待
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Citation	国民生活研究, 9
Issue Date	1965-09
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77329
Type	manuscript
Note	200字詰め 17枚。『国民生活研究』昭和 40年 9月号に、「家族周期の新たな動向」を掲載。
File Information	D013_01.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

No.

一）直系家族の周期的発展の理解と今日の周期研究への期待

ロシヤの小農の社会の研究者、チャヤノフの考へに学んでソローキンが米国の農民の一代家族について結婚後の生活の年次的変化を家族の構成人員の増減と経営耕地の拡大縮少とに一定の結合の傾向が存している事を示していたのにヒントを得て、私が日本の直系家族の世代的進行の内に、年限に反覆する周期の存する事を発見したのは、全く新らしい発見であったと思ふ。直系家族の一代家族の時間的経過の内に一つの大きな循環が存する事を発見したのは昭和十一、二年の事である。

◎私は直系家族の世代的発展の中に周期性があるとはまるで予想しなかったが、年次的発展を追って行く中に周期性の存する事を発見して小踊りした感激で

きな山が見出される事、それが二人の結合で始まりその死亡で終るこの時間的変化に一定の傾向の存する事は容易に考えられ得るであるが、年限に於て展して一回性的成長を辿っていると思はれていた直系家族の年次的成長の内に一代毎に全く同一の様式で反覆して現はれる発展の様式の存する事を周期的に発見したのは単なる模擬の体では無く ではなからうかと思う。しかし今日までに三十年間に米国の社会学者によってはその後、この家族の周期については数多くの学者によって不確定ながらこれ迄たけれども一世代家族の周期的変化に設定されて来た周期の段階の区分の形も変化

は四段階説が今では一般に承認された共通の考へ方となっている。

[illegible]

△住居のデザインを段階に関連さしているもの、社会参加を段階に関連さしているもののもあるが、要は暮し向きの問題が主である。

関心

農村と田舎町と都市との三者における比較しているものもある。

消費されるべき財貨やサービスの種類と量を段階毎に比較したものもある。

㊀

周期の初期には夫婦の親兄弟が、後期には子の配偶者と孫が准家族員として同居する事に注目している人もある。それが固定した型となっているのが拡大家族である。日本ではそれがどうして固定したのか大きな興味ある問題である。

又、時間によって変化する

◎即ち家族構成、耕地所有量、暮し向きが減など

している項の種類も私が直系家族に理解したの

より出ていることは殆どないと云へる。

私は直系家族の世代的進行の内、各時点における全家族員

の生産力の総和と消費力の総和の比率を同じ

として その家族の生活力の盛衰の浮沈の周期を同

題にしたが、この同じを労働力と生産量の

総量によって示されている。

次は私は十代毎の十倍を五年毎に区切り家族の世代的発展を

家族員の数の変化の進行を見た。ここでは各家族員は平米

各生産や消費の単位ではなくはかりが家族共同

平等な

㊥ 差し挟まれおいても ㊥ 前葉裏面へ

No.

体での位置が考慮されている。（成員の位置（年令）による労働力（や消費力）の補償も考慮された。）長男は十三才
の時は貧乏の時であり末子が十五の時は栄華
の時と云う伝説がその時に生産力と消費力の（のは主人夫婦の尽力があったためである。）
比率の上にも現れている。一代家族では結婚の年
と長男が生れた年、末子が生れた年、長子が嫁出
した年、末子が嫁出した年と云うのは老夫婦丈の
時期、その一方が死亡した年、他の一方も死亡し
た年を主要な一循環の切り目と考へている
のが出白の学生達の研究であるが、直系家族の
周期的変化を見た私は起点として分家して新

周期四段階説である。即ち(1)結婚して子なき夫婦の段階、(2)子供等が出生し成長して行く段階、(3)子供等が一人一人独立して出て行く段階、(4)老夫婦丈の段階。

ト田

らしく家族を成立させた場合の外には直系家族制度の世界には新家族の成立の起点はなかったのである。二人の男女が結婚して分家した、弟から新らしい独立の家族は出発したのであるから分家が完全に独立した直系家族の列に入りその家族の成員も完全に独立した直系家族となるためには結婚後三十年の歳月の経過が必要であった。それまでは新らしい分家は何かにつけて本家の庇護が必要であったと思う。結婚して三十年目から、家族成員の構成

かえれより一しっと密な組に

No.

本家など古くからの家族と同一の組織のものとなる。故に二の年を起点として直系家族の規則的な変化が二十五年を一期として無限に反覆するのである事を示している。

同宅より事項、例えば長子の結婚とか末子の結婚とかによって時期を区切るので、その事項は些少な差異として読みとられるものである。五年毎の変化の中にある些少な差異れている。

米国の家族の周期の研究に取り入れられている私の直系家族の世代変化には見落されていない主要なものは何もない様である。米国の家族の周期の中に認めた四つの時期の構造は私の直系家族の周期の中に皆含まれている、全部に認められるものである。

けれども各段階について詳しくその生活の型を取りあげるとすれば切りがない。結婚して未だ子をもたない、第一段の時期について、農村と都市で結婚年令がやゝ異る。地域社会の活動に関心が深いと共に読書やラヂオをきく時間が長い。小作農は貧況をきたして節約する。第二段は長子の誕生をもって始まり末子の誕生までで、農家では六、五年市街地では四・八年都市では三・六年位である。この段では子供の教育への関心が高い。第三段は長子が

十四才以上三十才に達する間がこの間に子供が結婚や就職のため家を出て行く時期である。養育費や学費の時ほどは少ない。子供の教育費娯楽費が多い。近代的住居に住む者の家は此時期が低い。子供は働いてもくれるが出費も多い。

第四段は末子の結婚をもって始まり、夫婦の一方の死亡をもって終る。第四段の終末はこの家族自身の終末まである。子供の教育がすんで将来の為に蓄える必要がないから貯金はできない。衣料費、設備費、教養娯楽費、身のまわりの

費用などがある。映画を見る時間が他のグループの二倍から三倍になっている。

このように家族は周期の進行と共に経済活動における変化と共に、社会活動においても一定の傾向を見ることが出来ることを明らかにしている。

生活の局面における周期のこんな研究は都市と農村の比較丈でなく、都市の職業別の相異を見ることも出来る。大企業体における職員の一代の地位上昇の段階と収入も職の内容の変化や、固定したものか、入社後退社までの周期

就業形態別生活の諸条件を比べ（この場合、人生計画の相違を示す
ために利用されるところは大きい。
その後の諸段階

を内々決定しているのであろう。その子はその職
業の一代の生活の周期に頗る大きく影響をも
つものである。（職場の差別の比較研究による）
職業職場のちがいが大きくなる所得の格差の
別は大きな問題である。そこに周期研究の
新らしい意味がある。

職場別だけではなく、地方別、国民社会別の地
位収入勤務内容の年次的変化の異同は興味
多い結果である。成年と共に各職場、各地方
内国民社会別でスタートを切った人生行路は

農民の階級周期、都市労働者の職務周期の別
でなく、それぞれ職業別の周期として観察されね
ばならない。

鈴木栄太郎稿

それぞれく個性をもちあるところでは行路
は甚だ困難であるところでは平穏である。大
タートを出て五十年の後における各人の職場
にある地位はも早や天地相異に立っているとこ
ろもあるであろう。これも大小の力の
企業体の規模格別に思ひを致する。
殊んスタートにおける甲乙の（力の）相異の甚だ大き
い場合については平等論者が既に多く同じれ
してきたところであるが、スタートは同一時点
であるが、遂行する行路の難易によって時と
共に相異が大きくなる場合の事例を示すも

の給として此種の職域周期の研究は誰にも興味もたれるものとなるであろう。
大営所の最高幹部に達した人の若ねにおへられよ所得は、その人の老後の安定だけでは及なく何代かの子孫を徒食させるに余りあるものとなる。
日本政治家にも矢張り所得の一代の周期が存している。
あやしの数億の私財を残した其政治家の所得は彼一人の票らつな私行から支へはなく日本の政治家に共通なもの種の一般的私行の存するそれ公然の秘

定つて居る。日本の政治家所得は存する周期が見られ得よ致寛も之には多い。

No.

(三) 家族の周期より職場の周期に

家族周期について私は種々の家族制度について行って見た。直系家族について行って見た。細川の家族の古さを逆算する為に百年前の衰えを行って見た。

(三) 男子総領の周期と継承

都市の周期、学校時代の長短、職

種別

(一) 直系家族の周期は

(三)(六)は日本における現在家族周期の混乱の時代

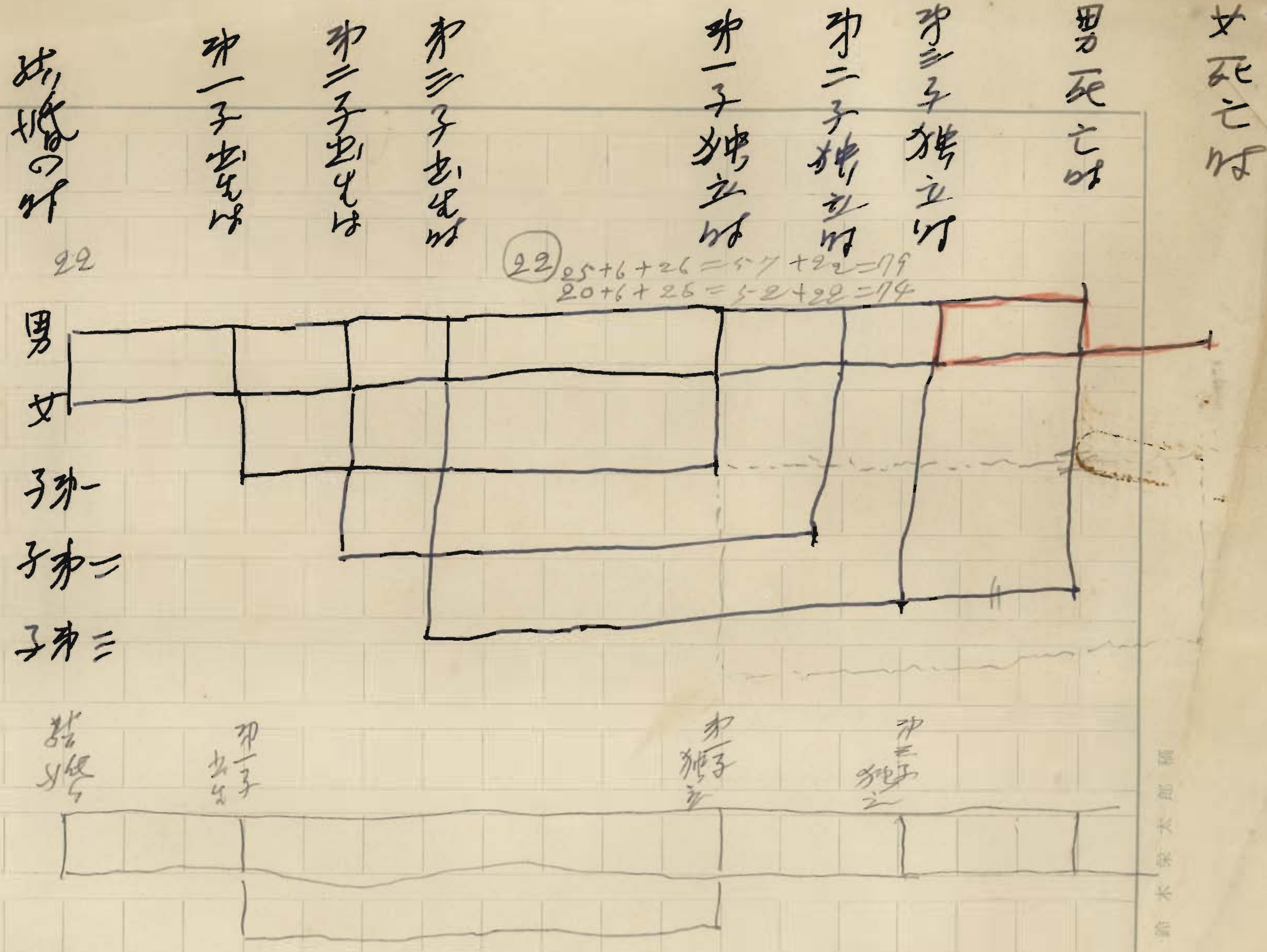
(四) 周期は所論付す秩序の崩壊

(五) 周期の基本的形式 → 生命と家族の理想

大命生命の上昇一方型

一般の落日長恨型

[illegible]


結婚の時
第一子生れ時
第二子生れ時
第三子生れ時
第一子独立時
第二子独立時
第三子独立時
男死亡時
女死亡時
22
(22) 25+6+26=57+22=79
20+6+26=52+22=74
男
女
子第一
子第二
子第三
結婚
第一子出生
第一子独立
第三子独立

No.